

SBI損保／ガイドワイア・ソフトウェア・ジャパン

がん保険に新コアシステム導入

「ガイドワイア・インシュアランススイート」で コスト削減とサービス品質向上

SBI損保は8月から販売している「SBI損保のがん保険（自由診療タイプ）」のための新コアシステムとして、ガイドワイア・ソフトウェア・ジャパンの保険アプリケーション「ガイドワイア・インシュアランススイート」を導入した。11月から稼動する同システムは国内損保初の導入事例となる。藤岡和之輔取締役は「当社が求めるコンパクトなシステムと運用体制が実現できることから導入した」と述べ、今後のほかのビジネスラインへの展開も検討する方針を明らかにした。同社が掲げる顧客中心主義のビジョンとウェブの利点を生かした高品質サービスの低価格での提供が期待できそうだ。



ゲイ氏(左)と藤岡氏

SBI損保は、がん保険の販売をきっかけにコアシステムを新たに構築した。ガイドワイア・インシュアランススイートの導入を決めたのは、ガイドワイアが損保業界に特化した機能と

コスト効率性の高いソリューションを提供していること、同システムが高い柔軟性と拡張性をもちと判断したことによる。SBI損保が求めているスピーディーな開発力と機動性、柔軟性、拡張性などの要件が満たされ、特に低コストでの運用が可能な点が最大の理由だ。同システムは従来のシステムに比べ、同社のビ

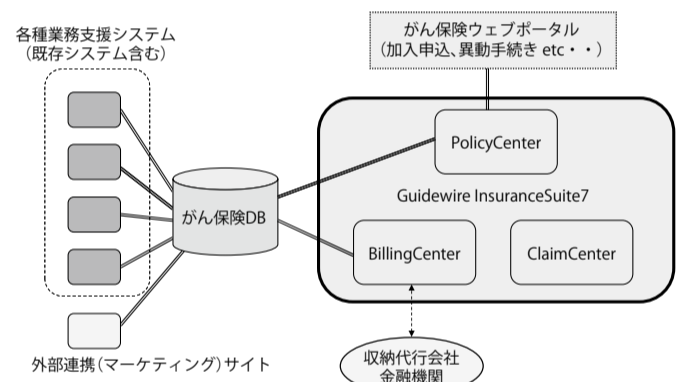
ジョンと規模に合わせて運用しやすいシステムとなる。ポリシーセンター（引受業務、契約管理業務支援とビルダセンター〈請求管理支援〉）、クレームセンター（損害サービス管理支援システム）で構成され、SBI損保では、がん保険の申し込みから異動手続き、

がん保険データベースの運用に使われる。社内各種業務支援システムなどともつながることで、効率的な運用が実現できる。

同システム導入に向けたプロジェクトは今年2月にスタートし、6カ月で完了した。藤岡取締役は「アジャイル手法で

のプロジェクト遂行は当社にとって初体験で、とても感じたが、両社で連携して、問題点や疑問点を解決した。今回は短期間で完了しなければならぬプロジェクトだったが、予定期間内、予算内で無事終えることができたことに満足している。

システム導入イメージ



る。開発しやすい言語で自社運用ができる面もよい」と強調した。ガイドワイアのジョエル・ゲイ氏は「SBI損保が当社のシステムを取り入れて最適なサービスを提供したい」とコメントしている。

う期待に対し、当社のコアシステムが応えることができ、うれしく思う」とコメントしている。